



35 犀川の秋 丸山晩霞

一面

大正四年（一九一五）

水彩・紙

四七・九×六五・〇

北アルプス南部の槍ヶ岳を源流とし上高地を南流する梓川と、塩尻を北流する奈良井川が松本盆地で合流するのが犀川である。この川はそこから中央高地北端部の犀川丘陵を蛇行しながら長野盆地へといたり千曲川と合流する。この自然が生み出した渓谷の風景美の数々を水彩で残したが、信濃出身の丸山晩霞（二八六七〜一九四二）である。丸山は本多錦吉郎の画塾彰技堂に入門後、明治美術会に入会、写生先で知り合った吉田博を通じて水彩画に興味を持つようになった。明治三十三年（一九〇〇）に満谷国四郎、鹿子木孟郎らとともに渡米し、現地で合流した吉田博、中川八郎と水彩画展を開催し成功を取めた。ヨーロッパを経由して帰国後、太平洋画会の結成に関わり、大正二年（一九一三）には日本水彩画会の創立に際し発起人となり、この二つの会を中心に作品発表を行った。

本作は大正四年の太平洋画会第十二回展に出品されたもので、初期の細かなタッチを慎重に重ねていく堅実な写実描写から、二度目の渡欧を経て、輪郭線を用いながら水彩らしい即興性を活かし、細部を省略して描く大らかな画風へと変わって以降の作品である。黄色と褐色を用いたための点描と色面によって秋の風趣を取り入れながら、暗色部分を紫色で描くところには丸山らしさがみられる。画面中ほどから上方の中景から遠景にかけては、色面が折り重なるように巧みに描かれ、遠近感をそれほど感じさせない画面となっている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan